

平成 17 年度調査・研究事業

鬼首地域振興計画策定調査<宮城県>

【概要】

鳴子町鬼首地域は、温泉地域として有名な鳴子町の中にあつて、大手民間資本によるリゾート開発を地域振興の柱とし一定の成果を上げてきたが、近年のリゾート需要の減少や地域農林業の弱体化などにより、地域産業全体の活力低下への対策が課題となっている。

本事業では鬼首地域が本来有している地域資源を再評価し、持続的な地域振興策について調査・検討を行った。

【対象市町村、モデル地域等】

宮城県鳴子町鬼首地域

【調査年度】

平成 17 年度

【提案・要請者】

宮城県鳴子町

【提言内容・その後の活動等】

鬼首地域が本来持っている自然、景観、伝統、文化といった魅力を再評価し、それらの魅力を結集した「地域力」を活用しての、「1. 新たな交流の仕組みづくり」と「2. 地域資源を活用した循環型システムづくり」を提案した。内容は以下のとおりである。

1. については、

- ①シンボル地域「きつね森」を舞台に、遊びの要素と食の要素をうまく組み込んだ企画を立てて、まずは小規模の交流から始める。
- ②きつね森以外で行われている「キャッチアンドリリース」「ブルーベリー摘み取り農園」「きのこ勉強会」などの取り組み情報を共有化し、来訪者にうまく伝えていく。
- ③初めての来訪者がまず立ち寄る場所であり、かつ地元住民も集まることができて相互交流を図ることができる情報発信基地を整備する。
- ④自然を守りながら来訪者を増やすために、サポーター制度を導入し、鬼首地域の自然や資源に関心の高い人に来ていただく。

2. については、

- ①地産地消の実践のために、宿泊施設のニーズ(種類・量)に合う農産物を、生産者から集めて宅配できるような食材流通システムを構築する。
- ②ペンション関係者と料理人の勉強会を開催し、地域資源に親んでもらうことで今後の資源活用のきっかけにしてもらう。

【成果品】

報告書

【調査体制】

委員会

【委員長・座長】

伊藤 房雄 東北大学大学院農学研究科助教授

【事務局】(IVICT は除く)

安部 祐輝 鳴子町観光農林課係長

大沼 幸男 鳴子町中央公民館主幹

菊地 宏美 鳴子町企画財政課主事

【調査協力機関】

株式会社プロジェクト地域活性

【視察先・ヒアリング先など】

秋田県大館市、北秋田市

【委員等】(分科会等は除く)

後藤 錦信 鳴子ツーリズム研究会会長・鳴子町議会議員

遠藤 兼司 きつね森王国国王・中川原地区町内会長

清水 美穂 コピーライター・温泉情報サイト「おんせん小町.com」主宰

大沼 伸治 東鳴子ゆめ会議事務局長・旅館大沼代表取締役

板垣 幸寿 鳴子町国際交流会副会長兼事務局長

高橋 とみえ 直売所やまが旬の市会長

高橋 公 認定農業者

鈴木 則男 鳴子町立鬼首小学校校長

大山 厚昭 鳴子町鬼首公民館館長

高橋 幸雄 鳴子町中央公民館館長

大信田 知英 宮城県企画部地域振興課地域振興第一班主任主査

【区分】

電源地域振興指導事業